

平成 28年度

秋 の 安 全 衛 生 大 会



 北央道路工業株式会社

日 時 平成28年 10月29日 (土) 午後 1時30分

場 所 栗沢市民センター(TEL : 0126-45-2128)

岩見沢市栗沢町北本町 1 6 8 番地 3

大会次第

1. 開会の辞

2. 北央道路工業(株) 社長挨拶

北央道路工業(株) 代表取締役社長 澤口 二郎

3. 安全環境本部より

北央道路工業(株) 安全環境本部 鎌田 理

4. 講演

有限会社 ケイアンドエイ 米口 晶三 様
演題 『安全と事故』

5. 大会決議宣言

北央道路工業(株) 札幌工事事務所 徳永 拓真

6. 閉会の辞

安全コラム

～…『建設業って3Kなんでしょう?』…～

「建設業って3Kなんでしょう?」それは学生時代の友人たちと居酒屋で飲んでいる時の事であった。建設業で働いているという、返す刀でこう言われた。心の中で「また言われたか…」と嘆いた。こう誰しもに言われると、もはや建設業の合言葉ではないかと思えてくる。建設業は「きつい」・「汚い」・「危険」。これら3つを合わせて通称「3K」。残念ながらこれが世間の目というやつだ。私はそれを言われるとムカッとするが、言い返す言葉が上手く出てこない。それは内心、私自身も建設業のイメージが3Kに近いものと感じているからだ。私はその場ではっきりと、「建設業は本当は素晴らしい職業なんだ!」と言う事が出来なかった。私は何かモヤモヤしたまま、友達と別れた。そんなモヤモヤを抱えながらも日々の仕事はやってくる。それは護岸の復旧工事をしている時の事だった。今まで体験したことのないすさまじい揺れが現場を襲った。「東日本大震災」である。幸い私の住む山形県ではの被害はそれほどではなかったが、隣の宮城県は壊滅的な被害を被っていた。

地震から2週間ほどたち我社では石巻市に重機を搬入しようかとの話が出ていた。先だって私は、被災地の石巻市に行くことになった。テレビ報道により被害状況を見ていたので「何とか力になりたい」という熱い気持ちになっていた。だが実際に現地に着いてみるとそこは想像を遥かに超える光景だった。もはやここに何があったのか分からない。果てしない瓦礫の山。私は茫然と立ち尽くした。これはもうどうしようもないのではないかと…。正直そう思ったのだ。来る前の熱い気持ちも、いつの間にか何処かに消えてしまったようだ。私はしばらく街中を、と言うか瓦礫の中をボーッと歩いていた。しかしそんな私を、ハッとさせる光景が目に入ってきた。それは陸上自衛隊と建設業者が、災害復旧のため必死に瓦礫処理をしている姿だ。自衛隊が派遣されたのは知っていたが、まさか建設業者がこんなに早く来ているとは思わなかった。その建設業者の必死な姿に、私は心の底から「感動」した。同時に、言葉では言い表せない熱いものがジワジワ体を駆け巡った。その時、すぐ側にいた地元の人がこうやってきた。

「自衛隊と建設業者には、本当に感謝しているよ。自分たちも危ないのにこんなに頑張ってくれて…」

私は建設業に携わり、こんなに心のこもった「感謝」の言葉を聞いたのは初めてだ。いや、ここまで心のこもった感謝は生まれてこのかた聞いた事が無い。無論、それは作業をしている人たちへの感謝の言葉なのだが、同業者だからか、何故か私も誇らしくなってしまった。その時私は思った。困っている人にこんなに貢献出来る建設業が本当に誇らしく、なんて凄い職業なのかと。以前からあった私の中のモヤモヤが消えた瞬間である。この時から、私の中の3Kは全く違うものとなった。

「感動」、「感謝」、「貢献」。私が自然と建設業に感じた言葉だ。

それは私の中でも悪いイメージだった建設業をガラリと変えてくれた新しい「3K」となった。

… 平成23年度「私たちの主張」- 未来を創造する建設業 国土交通大臣賞受賞作品より抜粋 …

大 会 決 議 文

我々、北央道路工業株式会社及び協力会社一同は、
労働災害の根絶、そして交通ルールの遵守と交通マナー
の向上に取り組み、安全意識の高揚と、より安全で健康な
職場環境を確立する為、本日ここに安全大会を開催いたし
ました。本大会を契機に新たなる決意のもと、労働災害・
交通事故の絶滅に努め、「無事故無災害」を目標にさらに
邁進することをここに誓うものであります。

以上、宣言いたします。

————— M E M O —————